

奈良文化女子短期大学 幼小接続ワーキンググループ合同研究会
第45回 議事録

1 日時 平成25年3月16日(土) 11:00~12:45

2 場所 奈良文化女子短期大学 本館 5階(第1演習室)

3 参加者 14名

うち 新規参加者 2名

武藤英嗣朗 ムーミン谷こども園 保育士

澤 ひとみ 堺市教育委員会幼児教育支援室 指導主事

本学学生 1名

本学事務局 3名

4 内容

(1) 一日体験入学の実施報告

○ 報告者 岐阜県関市立下有知小学校 教頭 大山夏生先生

○ 報告題 「関市立下有知小学校の幼小連携～はじめての一步～」

○ 概要

① 関市の幼小連携の実態

・岐阜県関市の教育施策への位置付け…「ぎふっこすこやかプラン」「幼小連携推進事業」

・下有知小学校の現況

1 幼稚園1保育所から半数ずつ入学、イチゴ狩り、七夕会、運動会など、これまで交流

② 下有知小学校としての幼小連携における課題認識及び改善の視点

「活動あって学びなし」の様相をどのように改善していくか

・活動の精選

・就学前健診の充実…5年生との交流の場の設定、保護者向けリーフレットの改善

・一日体験入学の充実…園児のねらい・1年生のねらいの明確化、とまどいの解消

生活科としての振り返りの時間の設定・確保

③ 一日体験入学の実際(平成24年度第1学年幼保小交流会「しもうちチャレンジランド」)

・〈チャレンジランド〉での小学校体験講座(体育館ではコーナー設定で実施した)

・講座の種類…「くつ箱・ロッカー体験」「ランドセル・机片付け体験」

「国語(書写体験・音読発表)」「図工(折り紙体験)」「体育(マット運動)」

「算数(数字当てクイズ・算数セットで遊ぶ体験)」

・幼児及び児童のめあての設定(園児74名参加)

[幼児]…小学校での体験を通して、入学を心待ちにする気持ちを高め、小学校の人々と関わることを楽しんだりすることができる。

[児童]…幼児との活動を通して、相手に応じて接しようとするとともに、自分の成長に気づくことができる。

・成果と課題

ア 活動の精選を図り、ねらいの明確化とともに負担感の軽減が図れた。

イ 園児・保育者に安心感が生まれ、就学までの生活の充実が図れた。

ウ 体育館での一日体験入学は内容の充実が図れたが、教室での実施も検討の必要がある。

エ 振り返りのための時間確保と振り返りの視点の設定が必要である。

オ スタートカリキュラムの検討が進んでおらず、幼小連携推進会議の活用の在り方を検討していく必要がある。

(2) 実施報告を受けての研究協議

○ 一日体験入学の環境: 体育館と教室とでは活動展開も教育活動としての位置付けも変わる。

○ 小学校との事前調整: 複数の園が関わる場合に調整困難。まず実施して次年度の課題が見える。

- 園児の遊びの変化：体験入学の経験が、園での遊び（学校ごっこ）に変化をもたらしている。
 - 1年生担任の感想：結果的に言える「やってみてよかった」という肯定的評価から、幼小連携は構えて実施するものではなく、まず取り組むことがなにより大切であることを実感した。
- (3) 研究協議のまとめ（善野代表）
- 平面的発想から立体的発想へ
 - ・ 事前・事後を大切にしたい一日体験入学の実施構想を立てること。
 - ・ 幼稚園・保育園と小学校のそれぞれの教員・保育士、保護者の相互関係の中で、もう一度一日体験入学を見直していく必要がある。
 - 5W1Hの共有化
 - ・ How のみにとらわれない。
 - ・ 5W の明確化と想定と整理から一日体験入学の内容が見えてくる。
 - ・ 就学に向けての保護者の不安を解消していくためにも、どのような力を育てていくのかについての説明責任を果たす。
 - ・ 教員・保育士、あるいは管理職の人事異動の影響で、一日体験入学についての実施内容や意識に差が生じている実態があるが、「してよかった」から「続けていこう」への意識の発展も大切にしたい。そのためにも本合同研究会で取り組んできた汎用性のある「一日体験入学（案）」を活用していく意味と価値があるのではないかと。
- (4) 一日体験入学案についての検討…（2グループでのワークショップ）
- 1グループの報告から
 - ・ 園児にとって印象に残るよい刺激は、コーナー形式と教室（スクール）形式の違いによって変わってくるのかについて視点を当てて協議した。
 - ・ コーナー形式からスクール形式への発展が基本となる。一日体験入学が内面への刺激としてスクール形式として教室の場での体験が望ましいだろう。
 - 2グループの報告から
 - ・ とにかく交流の場をつくるのが第一歩である。小学校ではすべての教員が交流の必要性を感じることに温度差がある。
 - ・ 活動のねらいや計画は、幼小一緒に作成していくことが大切である。
- (5) 助言（前田先生）
- 学校空間としての認識の視点から

一日体験入学の実施では、オープンスペースなど学校空間としてうまく機能しているかの視点からの検討が大切である。特に子どもの側からみて、こうした空間がうまくつながれば、子どもの姿にも幼小のつながりが出てくる。
 - 研究の継続・発展の視点から

幼小連携の研究や教育のバトンを渡すという視点から、若い世代の指導者に幼小連携の考え方や取組を伝えていくことも大切である。
- (6) まとめ（善野代表）
- 本年度1年間の本研究会への参加に対してのお礼と次年度に向けての取組課題の確認・提起
- (7) 参加学生の感想
- 今日の勉強会に参加して、幼小連携をされていることを初めて知りました。いろんなところの先生方が集まり、意見交換をするのはいいことだと思いました。子どもたちと関わる職業で当たり前だけれど、本当に子どもたちのことを一番に考えていることを感じました。このような場に参加するのは初めてだったけれど、参加して良かったなと思いました。

5 次回の予定

平成25年4月20日（土） 11:00～12:30
 ※毎月定例は、第3土曜日 11:00～12:30